

〈資 料〉

在日の元日本軍「慰安婦」の回想

——宋神道さんの証言——

吉見義明・梁 澄子

はじめに

この記録は、中央大学法学部の総合講座「戦後半世紀」の一コマとして、1999年6月2日午前11時から12時半の時間帯に中央大学8号館8203教室で行われた、梁澄子^{ヤンチンゾ}さんによる、在日の元「慰安婦」宋神道^{ソンシンド}さん（1922-2017）からの聴き取りを採録したものである。

法学部の総合講座「戦後半世紀」は、日本とドイツの第二次世界大戦における経験と戦後処理の比較を行う目的で、法学部でドイツ語を担当している北彰・平山令二両教授が中心となって毎年開講していた講座である。

6月2日の当日には、法学部1・2年の学生を中心に約300名が出席し、熱心に宋さんの証言を聞いた。北さんはその証言をテープに録音しており、昨年（2018）年2月になって文字おこしをしたものを我々に提供してくださった。なぜなら、一昨年（2017年）12月16日に宋さんは95歳で亡くなられ、2018年2月25日に追悼会が開催されたからである。

送っていただいた記録を読んで、その内容の新鮮さと迫力にあらためて圧倒され、これは活字にして多くの方々に読んでいただく価値があると思

い、お許しをえてここに採録することにした。北さんに厚くお礼申し上げたい。テープおこしは忠実になされており、その一部を修正する際にも証言に忠実に行ったが、繰り返しの表現などは一部削除したところがある。とはいえ、忠実に起こすといっても、宋さんの機関銃のように次々と繰り返す話術の迫力までは再現できないのが残念である。なお、文中の□□□は、早口のため聞き取れなかったことを示す。〔 〕は吉見による補註である。（吉見義明）

*

「なぜ辛い体験を話すのか」。講演の最後に学生から寄せられたこの問いに、宋神道さんは「苦勞してただ死ぬより、生きているうちに自分の苦勞をしゃべって、みんなにわかってもらうためにしゃべるようになった」と言い、「慰安婦」にされたと言ったら誰も相手にしてくれないだろう。そう考えると恥ずかしい。だけど、いま、恥ずかしくない。わかってもらえるから」と答えている。ああ、そうなんだ、やっぱりそうだったのだと、感慨深く嘸みしめたくだりだ。

当時の私が宋さんのこの発言をどう受け止めたか、記憶は定かでないが、おそらくいまの受け止め方とは違っていたのではないかと思う。当時は

まだ、その思いの深さに考えが及んでいなかったように思うからだ。

日本軍「慰安婦」被害者たちの名乗り出から30年近い歳月が流れたいま、彼女たちの多くはこの世を去った。宋神道さんも、2017年12月16日に亡くなった。いま、改めて彼女たちが遺していった言葉の意味を考え直している。「私たちのことを全世界に知らせて欲しい」と言って亡くなった姜徳景さんのように、日本軍「慰安婦」サバイバーたちは、それぞれの言葉で、それぞれが抱えてきた無念を語り、生きている間に語りたかった、そしてそれを覚えていて欲しい、忘れないで欲しいと訴えて逝った。宋神道さんもそうだ。

「なぜ辛い体験を語るのか」という問いは、時には「本当は語りたくないはずだ」という同情心から「誰かに言わされているのではないか」あるいは「言いたくないのに無理に話しているのではないか」という心配といたわりの言葉として発せられることもある。

しかし、彼女たちは語ることで「わかってもらっている」ことを確認し、安心を得て、被害回復していったのだという事実を知って欲しいと思う。そして、彼女たちは自らの意志で語り、活動した運動の主体であり、彼女たちの人生の主体であったことを、彼女たちの証言、訴えと共に記憶して欲しいと願う。

私の人生は宋神道さんとの出会いによって変わった。宋さんと出会っていなかったら、いまの自分はなかったと思う。

この講演録で再び宋さんと出会わせてくださった北彰先生、吉見先生に、言葉にできないほど深い感謝の思いでいっぱいだ。

また、あの日、教室を埋めた学生たちのことも、この講演録を通して思い出すことができた。若い人たちとの出会いは、宋さんにとって常に大きな

喜びだったことが思い出された。宋さんの人生を真摯に受け止めてくれた学生のみなさんにも、改めて心からの感謝を伝えたいと思う。

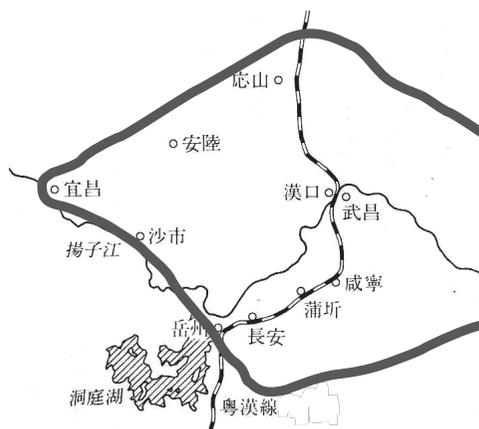
(梁澄子)

1. 宋神道さんの証言

まえおき

吉見 みなさん、在日の元「慰安婦」として日本政府に謝罪と賠償を求めて裁判を闘っている宋神道さんと、「在日の慰安婦裁判を支える会」の中心になって活躍している梁澄子さんです。今日は僕が担当している6回の総合講座の講義の最後の回ですが、宋神道さんが梁澄子さんの質問に答えるという形で証言を聞きたいと思います。

証言を聞く前にちょっと僕の方から、レジュメに従って、宋神道さんの略歴で事前知っておいた方がいいことを簡単に申し上げます。レジュメの左側に略歴がありますけれども、宋さんが朝鮮から連れて行かれたのは、最初は中国の武昌です。それから岳州とか咸寧とかいうところを転々と移動することになるわけですが、地図の中に菱形のような形がありますね。時期により少し変化がありますが、この内側が日本軍が実効支配していた地域です（地図参照）。太線の外側は中国軍の、



地図 宋神道さんが連れていかれたところ

中国政府の支配地域ということになります。宜昌・沙市・長安・応山・蒲圻も宋さんが実際に行ったところですよ。

これを見ますと、日本軍の最前線に近いところの慰安所を、あちこち転々とさせられた、ということがわかると思います。日本軍の支配地域はこの漢口という都市を中心にして菱形の内側の部分であり、基本的にはこれ以上は拡がらなかったわけですね。そして漢口にいたのが日本軍の第11軍という非常に大きな軍隊です。で、宋さんが移動した地域は、いずれも第11軍の支配地域ということになります。

それから、参考文献についてちょっと申し上げておきます。三つほど挙げてありますが、一番はじめの金富子・梁澄子ほか著『もっと知りたい慰安婦問題』（明石書店、1995年）は、今日来ていただいた梁澄子さんたちが宋さんのヒアリングをまとめた本です。在日の女性の立場からヒアリングをしたもので、非常によくできている本だと思います。

二番目に川田文子さんが『皇軍慰安所の女たち』（筑摩書房、1993年）という本を出しました。この中にも宋さんのヒアリングがあります。これも貴重なヒアリングです。で、日本人の女性がヒアリングした場合と在日の女性がヒアリングした場合とで、少し違う面が引き出されている。両方比較すると非常に興味深いものがあると思います。

それから三番目に、在日の慰安婦裁判を支える会が『宋さんといっしょに』という3冊のパンフレットを出しております（1997年～1999年）。今日持ってきてもらったのですが、パート1が裁判での宋神道さんの本人尋問調書、パート2が一橋大学の藤原彰さんの陳述、それから僕が裁判所に出しました鑑定意見書が入っております。特にパート3はみなさんと関係が深いと思いますが、五

十嵐正博金沢大学法学部教授が法的な面での意見書を出しております。僕の意見書を除いて、いずれも非常によくできていると思いますので、関心のある方は後で入手していただければと思います。それでは、具体的に宋神道さんのお話をお聞きしたいと思います。

結婚からの逃走

宋〔緊張した声で〕みなさんこんにちは。よろしくお願ひします。

梁 宋さんにどんだんどん話して行っていただと、感情が激してきて、いまの気持ちのところにバツと走って行っちゃったりすることがあるものですから、私が順を追って宋さんに質問するような形で進めたいと思います。じゃあ、宋さんね、つらいと思うんだけど、やはり慰安所に連れて行かれることになったきっかけ、どういうふうにして慰安所に行くことになったのか、というところから話して下さい。

宋 はいはい。やっぱりほら、こういう戦争のためにね、戦争のために、「慰安婦」にするとか何とかかんとか言って、それで軍人たちを楽しませるために、国のために働かなくちゃならないと、それで行けばいいんだというような話なんだけど、いざ行ってみれば、そんなとこじゃないです。

梁 ちょっと待ってね。やっぱりそこからだと話しくいみたいね。お父さんはいくつの時亡くなりましたか。

宋 いやあ、お父さんが亡くなったのは52歳だったが、52歳で俺が15だか12の時亡くなったから……。

梁 12歳って言ってたよね。宋さん、これずいぶん久しぶりなので、若い方たちの前で話すのが一番緊張するんですね。というのは、みなさんがもう20歳くらいだということは伝えてあるんですけど

れども、いままでに一番緊張したのは高校でやった時、16.7の女の子たちだと言ったら、立った瞬間に涙が出ちゃって。というのは、宋さんが「慰安婦」にされたのは16なんですよね。自分が何にも知らないで「慰安婦」にされたから、こんな子供に、子供のことを宋さんは「わらし」って言うんですけど東北弁で。こんなわらしに話したってわからないべっちゃ、俺だってなにもわからなかったんだから、ということで、なにも知らないわらしに話すのはいやだという。で、今日もやはりみなさんお若いんで、だいたい緊張していると思います。

で、お父さん12の時に亡くなって、その後お母さんのもとで妹さんといっしょに暮らしてて、それで、結婚式を挙げるんですよね。そこらへんから順を追って話した方がいいみたい。

宋 それで、ま、お父さんが亡くなって、1年も2年もたたないうちにお母さんが、お前結婚しなくちゃならないと。とにかく結婚して、いいダンナさん持って、人並みの生活しなくちゃならないって言われたんだけど、まだ遊びたい盛りだったから、結婚っていうものはわからないし、男も知らないし、それでも、親の命令でとにかく行けと言われてしょうがないから、行くばり行って、あとで逃げてくるばり、行くなら行くと。それでまあ、行ってみたら、いろんな仕度をして結婚する仕度もあるんだし、私が反対しても結婚式のこととは仕度してあって、ちゃんと親たちが待ってたんだよな。

それでまあ、結婚だと言ったから、まあしょうがないから、まあそれで行きましょって。その時に、日本ならなんて言うんだかなあ、神様さかついで歩くのあれなんて言うの、梁さん。

梁 神輿？

宋 うん、神輿みたいの、そういう人さ乗せて連

れて行かれて、行ったのは行ったんだけど、在の方だったから、とにかく後で逃げてくるにしても逃げる場所ちゃんと造らなきゃならないと思って、ちゃんとなんだかカーテン閉まってるとこさふつつあいて穴たてて〔裂いて穴あけて〕、とにかく行ったら行ったですぐ逃げてこなくちゃならねえなとか思って、見たらやっぱり在の田舎だから、これじゃ大変だなと思って行ってみたくです。

行ってみたら、その時もうちょうど6月だったから田んぼはあるし、山辺だし、何とかして逃げて走らなきゃならないと思ってまあ、行くことは行ったんだけど、その時は嫁さんが来るというような気持ちで、近所の方々がみんなひと目見ようと思ってみんな見てたんだけど、なんだか俺もおかしくなっちゃって、どんなもんだべなと思って行ってみたら、ちょうど夜になったわけだよな。夜になったら、その時俺を、私をもらおうとした男の方は28,9かたくらいの男だった。私はたったの16だし。それで暗くなったら、その男の方がなんだのかんだの言ってさわったり、俺のことさ裸にねせよとしたり、でもちょっと待ってなさいと言って、行った晩に、とにかくオシッコ立ってくるからといって、裸でシュミーズ一枚でもって逃げまくったの。それで逃げて帰ってきたの。

梁 その時どうして逃げたんですか。

宋 結局男の方が腹の上さ乗かって、やらせるのって言って、やらせるのって言ったってわかんねえしさあ。いまのあねっこたちならわかるけど、私たちの時代は全然知らないもの。だから、ああ、これじゃ大変だなと思って、逃げたわけなんだ。それで逃げて家さ帰ったわけなんだ。

梁 当時の朝鮮の風習としては親の決めた相手、顔も知らないような相手と式を挙げさせられるわけですよね。だが、結婚するということの意味がわからない。で、なんか結婚式の時も近所の子と



写真 質問に答える宋神道さん（左）と梁澄子さん（北彰氏撮影）

ままごと遊びをしていたんですって？

宋 そうそう。いちゃいちゃつるこさんというまめこみたいなことやってんだよ。それで子供たちといっしょに来たばかりの嫁さんがあんなことやってこんなことやって笑われても仕方ない。好きだから。で、それやって笑われたこともあるの。

だまされて中国へ

梁 いまの16歳からは考えられないような幼さで、夜、夫になる人が服を脱がせてのしかかってきた時に、たぶん私が想像するに、宋さんは非常に恐怖心を感じて、また嫌悪感のようなものを感じて、トイレに行くからと言ってその場を逃げ出して、家まで逃げたという話です。で、その後どうしたんですか。

宋 逃げて、まあ、しょうがないから逃げられしてもどうなるにしてもやっぱり親のもとに帰らなくちゃならないし、親のとこさ行っわけなんです。ちょうどその頃夜だったから、真っ暗いところだったから、暑かった時だったからよかったようなものの、寒かったら大変だったんだろけれども、ほんでおかあさんだの、みんな部屋さ遊んで妹も寝てたようだし。とにかくなんとかして寝なくちゃならないと思って、寝ると思っても、朝

鮮さ、ご飯作るところ、竈^{くど}ってあるでしょ、あそこに足突っ込んで、そんで足だけあっためればいんだ。もし頭そこさ突っ込んでたら、焚き付けて焼き殺されなければなんないべっちゃ。

だから足あっためて寝てるうちに今度は妹が出てきて、「ねえちゃんなんだや。結婚して行っわけ、なんだや」って言うから、「なんだかおめえ、結婚だか、そっこんだか、なんだかわかんねえけども、行っわけ、男の人、腹の上さ乗っかってくるんだでばや。そんでおっかなくって逃げて来たや」って行っわけ。「馬鹿だな、女はそれ。」やっぱり妹は男と遊び方覚えてるんだかなんだかわかんないんだけど、俺は全然知らないから。そいでまあ、裸で行ったもんだから、妹が、きょうだいだから、自分で着たチョゴリっていうのね、あいつを上着こ持ってきて着せてくれたり。そして、その晩寝ようと思って、足さ竈に突っ込んで寝るっぺって思って寝たら、お母さんが起きてきて、焚き付けると思った時にはもう、それこそ焼き殺されるんじゃないかと思って吹っ飛んで逃げてきたわけなんだよ。そしたらツラ中もう炭だらけになっちゃって、話になんない。しゃべってるから可笑しいけども話になんねがった、ほんとに(笑)。うん。

梁 それで家を出て、で、誰かに声をかけられたんですね、戦地に行かないかって。

宋 うん。北朝鮮のおなご、おばさんだったんだけど、ま、亡くなったと思うんだけど、44.5歳くらいのおばさんだったんだけど。そのおばさんが、おめえ、嫁っこに行かなくなたっていいんだから、いくらでも嫁っこに行かなくても、ひとりふたりくらいは暮らすにいいんだから、そこさ行けと言っわけけれども、そういうとこどういっわけなのってきいたら、兵隊さんの服洗ったり、それからなに？洗濯したり、そういうところだから、なにも心配

ない、と。結婚するよりはいいと。で、そのばあさんの口車にだまされて、それで新義州っていうところに、そのばあさんに連れて行かれて。

連れて行かれたところが「ソゲソ」って言うんだな、朝鮮語でな。ソゲソって、人間ブローカーって言ったらいいんだか、そこさ入れられて、するとおなごたちの、20人も30人もいたおなごたちがみんな前線の方に行くようなおなごだって言ってたから、じゃ、まさか死ぬとこさ行けば、まさか俺ばりじゃねえんだべって。で、この人たちみんないっしょに行くんだなって思って安心して、行ったわけなの。で、借金してる人もいるし、借金なくて行ってる人もいるし、様々で、2,30人くらいみんないっしょに行ったわけなの。

梁 いま「ソゲソ」っていう朝鮮語が出てきたんですけれど、訳すと「紹介所」と言います。紹介所という漢字を書いて朝鮮語でソゲソって言っていたんですが、当時朝鮮にあった人身売買の巢窟ですね。それを宋さんの言葉で人間ブローカーというふうに訳していますが、当時人間ブローカーという言い方をしていたわけではありません。朝鮮語で聴き取りをすると、そこらへんはきちんと当時の言葉で答えるんですね。人身売買を行っていた紹介所ですね。

ですから、背景についてはおそらく吉見先生から色々とお話をきいていらっしゃると思うんですが、軍が指定した業者が植民地の朝鮮から女性たちを募集する時には、さらに末端で色んな人を使っていたと思うんですね。その中に当時行商の、ポツタリチャンサと言うんですが、行商のおばさんが風呂敷包みを持って色んなものを売って歩くという商法が当時朝鮮では一般的なんですね。そのおばさんたちが、情報の媒体、色んなところに情報をつなぐ。あそこがいい娘がいるよ、とかね。そういうことを人身売買の、宋さんの言葉で言えば

ブローカーに伝えて、そのブローカー自体、朝鮮人のブローカーというか、人身売買業者自体が、軍が指定した業者のまた下請けのようになっていた。

そういうシステムが植民地朝鮮でできあがっている背景には、朝鮮が植民地化されてすぐに朝鮮に持ち込まれた日本の公娼制度が背景にあると思うんですね。日本にあった公娼制度が、朝鮮の植民地というか、植民地化以前、もう1870年代に開港されるとすぐに開港地に日本国内と同じ公娼制度が持ち込まれて、植民地化されると同時にそれが制度化されていくというのがあって、その中で十分に業者たちが育っていたんですね。1930年代に入って、1937年、38年になって、日本陸軍が本格的に慰安所を展開する頃には、軍が指定した業者が下請け業者のようなものを朝鮮に行って見つけるのが容易であるというような、そういう下地ができあがっていたんじゃないかというふうに私は考えています。ごめん、私がちょっと長くしゃべっちゃったんですけど。

武昌で「慰安婦」に

梁 それで最初にその新義州の後、どこに連れて行かれましたか？

宋 新義州ってところに連れて行かれた。

梁 いえ、その後、中国に……。

宋 あ、中国に行く時に、あの、天津ってところあるのよ。天津ね。その天津通らなきゃ漢口の方に行かれないわけだから。その天津のところに行くと、やっぱり「慰安婦」のおなごたちが朝鮮のおなごばかりで、きれいな日本の着物着て正面が見えてたわけさ。おめえたちもこれからああいう着物着て、日本の軍人を相手するんだって言われたから、いやあ、その着物はいいんだけど、その相手するって何を相手するんだかもわかんないわけだよな。その頃言葉も通じないし、大変な目にもあったん

だけでも、とにかくだんだん慣れるから大丈夫だ
なって言われたんですけども、行ってみたら、こ
れから武昌っていうところに行くんだから、いっ
しょに武昌ってとこに行きましょうってなって、
武昌というところに行ったら、コウさんという朝鮮人
になんとかして体買われて、行ったわけなんです
よ。武昌ってところにね、その時はまだ舟も通っ
てないし、道路もなかったから、……舟は通って
ただけれども道路はなかったのよ。いまは……
道路になってるからいいんだけど。

まあ、それでそこさ行ったら、前にいたおなご
たちが、5,6人だか10人くらいのおなごたちがいた
時に、世界館っていう慰安所の名前がかかって
いた、その世界館っていうところに、その朝鮮の
おなごがいっぱいいたわけなんです。その人たちが
こういうふうみんな兵隊の相手して働くんだ
から、おめえもこれからそういうの相手にして、
働きなさいと、いくら相手にするんだって言った
って、そういうの相手にするのどういうふうにし
て相手にすんだかわかんねえわけだよな、はじめ
てだから、だから、ああそうかそうかって言って
聞いていたら、そのあくる日入って行くとコンク
リの方で、人間の血なんだか動物の血なんだかわ
からない、いっぱい散らかって、汚いし、衛生的
にも良くないから、それでお湯沸かして、とにか
く血ついたのみんなタワシで洗って、タワシない
から藁でくるんでそれで血を洗って、それでオシ
ッコがつまったからその裏通りに行ったら便所が
ないんだよね、便所がなくて、トコの低いところ
あがったら、大人が死んだもんだか、なにが死ん
だもんだか、だれも片付けてくれないの。で、私
がその死んだ遺体を自分の着物ほどいて着物さく
るんで、それで穴掘って、それでそのそばで埋め
たことがあるの。武昌でね。

梁 いまのは、おそらくみなさん吉見先生の授業

でお聞きになったと思うんですけども、南京事
件後に、1937年末の南京事件後に慰安所というの
は大々的に拡大・設置されていきますけれども、
宋さんが連れて行かれたのは1938年なんですね。
だから南京事件よりも後で、南京事件後の大きな
作戦としては武漢攻略作戦というのがあります。
いま言っていた武昌というのは、この地図に出て
いますけれども、ちょうど真ん中あたりですね、
武昌、漢口、漢陽というこの三つをあわせて武漢
三鎮と言っていました。この中の武昌というところ
に宋さんは連れて行かれたんです。で、建物に
血がべったりついていて、まだ中国人の死体が転
がったままだった、という話なんですね。つまり、
ほんとに武昌攻略直後にそこに連れて行かれたと
いうことが非常によくわかる証言だったと思います。

慰安所での最初の体験

梁 それからいつ宋さんは、「慰安婦」というの
がどういうことをするのか、というのはどういう
ふうにしてわかったんですか？

宋 それでまあ、帳場とかさ、そこのコウさんと
かいう主人たちが言うのに、もしお前たちがこれ
から働くにしたら、それで行ったら今度は軍人た
ちが、通過部隊だとか色んな部隊がいるわけだ。
13師団だとか6師団だとか9師団だとか、師団が
いるわけなの。その師団の人たちが、あす死ぬか
あさって死ぬかわかんないような身体だから、「慰
安婦」たちが来てるが、どんな女が来てるのかっ
て見にきたんですよ。それで、あれだ、これだ、
言ってるんだけど言葉が通じないから、頭ばりボ
カボカッとさげて、刀さげておっかなくてしゃべ
れねえべし。ただ逃げまくっているような状態だ
ったの。そしたら、ある兵隊さんがね、とにかく
これから、「慰安婦」のこと許可さ受けたら遊び
さ来るからとかいうような意味だったんだかと思

うんだよ、俺はね、そしたらば橋本中尉っていうのが軍医さんだったから、女の下^{した}見る人間だったから、そいで明日あさってから検査するんだよって言われて、検査するって言ったって、体の検査なんだか下の検査なんだかわかんないわけだ、やっぱり下の検査なんだよ、それで古くいる、男と関係した人間たちは平気で見せるよ、われわれまだ処女だからおっかなくて、恥ずかしいしおっかないけど見せなきゃならないわけさ、それで泣いたっけ、軍医さんがびっくりしちゃってケツはたいて、よしとっておろされて、それでやらなくなった、その軍医さんがあくる日の晩に遊びさ来たんですよ、だけど私はいやだって言って逃げまくって歩いて、そういうね時期もあったんです、実際は、

梁 逃げ回って、橋本軍医、軍医さんですね、軍医さんはそのまま出て行ったんですね。

宋 出て行った。うん。

梁 その後、じゃあ宋さんがはじめて自分が「慰安婦」にされたということがどういうことなのかってわかったのは、どういう時だったか覚えてる？

宋 それはだんだんだんだんいるに従って、言葉は通じないし、みんな国のためにこういうふうにして働くんだって言うから、いや、私はいくら国のためだからって言って、男と関係してまで国のために働くの大嫌いなんだと、お嫁にも行かないで逃げて来た人間がまたこういう馬鹿なことやって大変だなと思って、泣きながらしていると、そうすると今度は帳場の野郎が引っ張って行ってひっぱたく、兵隊たちはあふれてきて、やらせろと言ってさわぐ、殴られる、刀抜いて暴れまくられる。ほんとに死ぬとこさ来たんだとずいぶん心配しました。

梁 じゃあずいぶん、逃げたりとかしたことも……。

宋 逃げたって遠くは逃げられないから、どこさかここさか、見えないところさ逃げたり、3回、4回さ逃げたり、外さ出られないもん、ほんとにおっかなくて、兵隊たちがあふれてるから。

慰安所での状態

梁 武昌には何年くらいいたんですか。

宋 あしかけ三年だね、借金があるのながあるの、日本の着物着て働かなきゃならない、その着物欲しいと言ったわけでもないのに、帳場の野郎がみんな借りてきてその着物代がなんぼだ、あのころ着物一着買うっていったら三十円で買ったから、着物代がなんぼだかんぼだって、その三十円の借金しよったのが三年も四年もいなくちゃ脱げないとか言って、えらいだまされて、まあ、稼いでいるわけさ、そこでね、したらば、はじめての兵隊が来て、刀抜いて遊ばせないかと言って暴れるヤツもいるし、かわいそうだって言ってなんだかんだそのまま帰って行く人もあるし、泣いていく兵隊もいるし、様々ありました。

梁 じゃ宋さんは、途中で天津でああいう着物を買って、お前も国のために働かなくちゃいけないだよって言われて、着物を一式買ったけど、それが借金になったわけね。

宋 それが借金にされたの、全部。

梁 じゃ、その後軍人の相手をさせられて、お金はもらえたんですか。

宋 もらわないの。

梁 じゃそれは借金を返してるっていう……。

宋 結局帳場の方でとったんじゃないのかな。そりゃあ、本人は払わない、もらわないけれども、帳場の方でとってしまえば、われわれ見るわけでもないし、もらったもんだか、やったもんだか全然知らないでしょ、俺は。

梁 じゃ、そこに3年くらいいた時に借金は全部

なくなったよって言われて、で、その後どうしたんですか。

宋 その後は、だんだん軍隊が、兵隊さんたちが、討伐って言ったらわかるか知らんが、討伐に前線の方に行くようになって、武昌っていうところがだんだん軍人がいなくなってヒマになってきたわけさ。そうすると、どこだか出張に行行って言われて、出張っていうものも知らないから、それで何人か、2人か3人か、「慰安婦」のおなごたち1軒か2軒でもいいけど、2人か3人はかならず行ったわけだから、で、その人たちが、軍隊が来て、連れて行かれるわけだよ。それで連れて行かれたところが岳州っていうところだよ。

出産と子供との別れ

梁 その岳州に行く前に、漢口で子供産んだんじゃない？

宋 うん、そだな。武昌で子供ができて、帳場の方では妊娠した女を置いたって商売にならないし、兵隊さんの相手にもならないわけだ。だから、どこさか行って売りなど言われたんじゃないかと思うんだよ。もっとも大きい腹してから、軍隊の相手できないもの。だから売られれば売られたところで、漢口に行ったわけだよ。そしたら漢口に日本租界っていうところに入ったら、やっぱり日本租界に海軍慰安所があったわけだよ。で、海軍慰安所のところに入ったら、子供産んだら、また働いてもらうためには、こうして何ヶ月かの苦勞しなけりゃならないと。そこで子供産んで、その産んだ子供をやらなくちゃあ、他さやらなくちゃあ、商売にならないと言われて、生まれて、生まれたばかりの子供だからおっぱいは張るべし、その子供はおっぱい欲しさに泣いているし、育てられないべし、どうしようもならないと。

じゃあ、誰かくれてやれって。くれなくちゃ、

商売にならないと。それでその子供を、人さやったわけなんだよ。女の人さね、朝鮮のおなごさやったの。やったらもらった人も、子供が泣いて育てられないから、って言って、その子、男の子だったから、それでなんとかしなきゃ俺も大変だと。そつたらおめえ、なんで最初から自分で育てるって持って行ったのかって言って怒りまくったけれども、その時俺ももうずいぶん考えました。いやあ、こんなことになったんじゃ、死んだ方がええかなと思ったけれども、死ぬこともできないし、子供育てることもできないし、借金は借金だって騒がれっぺし。まあしょうがないから、その子供をそのまま持ってきたんだけど、置けないから、その子供をまた持って行ったわけなんだよ。

梁 その子供をね、その人にあげた時はつらかったと思うんだけど。

宋 つらいよ。うん。つらい。

梁 産んだ時はどんな気持ちだった？

宋 いやあ、産んだ時、腹はでかいし、妊娠して10ヵ月になっても兵隊さんを取らせるから、とてもひどいんだよ。だからこれ、しょうがないから命令通りに従わなければビンタはとられるし、どうしようもならなかったもの。それでまあ、あのころは、年の若いころに子供産んだんだけれども、子供がかわいいんだか憎いんだか、なんで、それ、全然知りません。ただこの子供をなんとかしなければ、自分が自由になれないんじゃないかっていう気持ちを持って、そしてまあ、一生懸命働きましょうと思って、気持ちが手いっぱいだったんだよ。全然なにも、つらいとかなんとかいう気持ちが全然わかんないんだもの。

梁 いま、子供のことは思い出しますか。

宋 はい。思い出します。やっぱり、あの……（絶句）。たとえ軍人とつくった子供でも、軍人とじゃない子供でも、たとえ合いの子でも、こうやっ

て女として産んだ子だから、自分で思うように育てたんじゃなくて、他人さやったのが、ただ情けないのが、それが、いまでも胸いっぱいです、実際（涙声）。だから、子供というものは、ただ人形みたいに作るわけじゃないんだから。だから、ひとりでもふたりでもとにかく生まれたら育てれば、私だっていまごろは心配もなかっただろうと思うけども、やっぱり子供がないからなおさらさびしいです、いまはね。野ッ原の松一本と同じで、ひとりで生きて行くのが情けないっていう気持ちも。しまいに養老院さ行くほかない立場になると、ますます残念でしょうがないです。

梁 ちょっとつらい話しつこいけど、子供は、生きた子供はふたり産んだのね。

宋 そうです。ふたり産んで、それからこれは、何ヵ月たってもお客さん取らせるから、その子供が、たとえ「慰安婦」のおなごじゃなくたって、家庭もってる人間でも、五ヵ月くらいならいいけど、七ヵ月、八ヵ月になったらその子供に影響があるの。腹から死んじゃうんだよ。死んだ子供を出す時も、やっぱり死んでる子供というのはつっぱたつて出ないんですよ。それで手引っ張って出したら、子供は葡萄色になって死んでしまっているし。へその緒はついたまま、でもカッコが悪いもんだからその子供、ヘソ切って、そして山の方さ行って埋めたことがある。そうやって、腹の中の子供死んだのが、ふたりばかりいたんじゃないかなあと思う。だいたいね。

梁 ちょっとつらい話で……。宋さん、中国残留孤児が日本に来ると、いつもテレビよく見てるもんねえ。

宋 そうテレビ見てるの。やっぱり似た子供がいるんじゃないかなあって。でも、産まれて20日もならないうちにくれた子供だから、大人になれば、大人になったって、ちゃんとね、鼻や目は全部み

んな似てるんだから。あの男の人に似てるんだってわかるんですよ。で、どこでやってどこで産んだってことも覚えてれば、探すんだけど、中国人にもらわれようが、朝鮮人にもらわれようが、その子供が大きくなってれば、本人がなんぼ知らないって言っても覚えてるから。ちゃんと経過、検査して覚えれば大丈夫なんだよ。でも、子供どころじゃないからな、いまは。考えてみたら、

前線でのつらい「慰安婦」生活

梁 ちょっと話戻るけど、武昌にいて借金がなくなったと。その時にちょうどおながが大きくなって、漢口の方に売られてそこで子供産んで、その後、さっき言った岳州ってとこに行ったの？

宋 ええ、岳州ってとこは、もとはね、峯部隊って言って、日の丸つけた峯部隊っていうのがあるの。そういう部隊が、1箇連隊かいたわけなの。その時、慰安所は2、3軒あったわけだわ、あそこも。朝鮮のおなごばかりで、中国人もいたし。
梁 峯部隊というのは、独立混成第17旅団と言って、当時岳州の警備部隊だった部隊です。そこで、岳州にいつもいたんじゃないかって、さっき出張って言ってたけど、命令があると、その兵隊たちが移動して行ったところに宋さんも、他の女の人たちといっしょに行くわけね。

宋 そう。そこで行ったところが咸寧とか長安とか、それから宜昌、沙市、安陸、ずうっと引っ張られてそんなとこさ歩いて行ったわけ。一週間で帰ってきたり、それで出張の「慰安婦」として行って、働かなくちゃならないの。行かないって言ったら怒られっぺし。殴られっぺし。

梁 命令っていうのは誰がするの？

宋 命令は軍隊で、憲兵隊から命令出すわけだよ。
梁 軍隊が命令するの。じゃ、どういうふうにして、何に乗っていくの。

宋 車. トラック, トラック.

梁 誰が運転してるの.

宋 それは, 兵隊さんが運転する.

梁 じゃ, 軍のトラックに乗せられて, 軍人たちが移動した先に行って, そこで, 「慰安」をさせられるわけね.

宋 うん. そこで終わったら, また帰ってくるわけだ.

梁 また帰ってきてね. うん. いまの話をきいて, おわかりかなと思うんですけど, 武昌にいた時と, 「慰安婦」としてさせられている内容が若干変わってるというか, 本質的には変わらないんだけど, 武昌にいた時には, 大きな街ですから, 都市ですから, ちょうど当時日本にあった遊廓とかそういうものを想像されると, 似たような感じのシステムになってると思うんですね. さっきも聞いてわかるように, 兵隊さんたちは帳場でお金なり, お金を替わる軍票なりを出すから, 自分たちはお金を払ったと. あの女たちはみんな商売で来てたんだからいいじゃないかって元軍人さんたちが言うのは, 自分たちはお金を払ったっていう意識があるからなんですね.

でも, 帳場で受け取ったお金は, 宋さんには借金があるから, その借金を埋めてるから, という説明で, 宋さんには渡らないようなシステムになっていて, それはおそらく実際に来ていた軍人たちにもわからない. そういうふうになってたんだと思うんです. 宋さんの話を聞いていると, それがだいたい3年で済んだところに, ちょうど妊娠をしていて, 漢口で子供を産んだ後, 岳州にまた売られたというふうに宋さんは言っていますが, その岳州はさっきも言ったように司令部があるので, 通過部隊, 部隊がいったんそこに集結すると, 軍人たちはあふれかえっていて, 「慰安婦」たちは一日に, 多い時は何人くらいって言った?

宋 まあ, 50人くらい, 60人くらい取らせるんだね. で, そうやって飯も食わせないでそれでお客さんばり取らせてみる, おめえ, くたばってしまうべちゃ. そんでもまだ若かったから, 死ぬか死なないか, まあ, 命がけでやったわけなんだよ. 俺は絶対ゆるさないよ, 日本の政治家の野郎! ほんとに. 嘘ではないから. 絶対ゆるさないから!

梁 それはこの後にして. まあ, 5,60人, 1日に5,60人取られるくらい, 軍人があふれかえるんだけど, その部隊が通過して行ってしまっ, さらにもうちょっと前線の方に出て行くと, 手薄に, 女性たちが余るとい, 軍人たちがいなくなって, 「慰安婦」たちが余るとい, 一日に50人も60人も取らなくていい状態になるわけですね. そうすると, 部隊が移動した先に呼ばれるわけですね, その部隊から. 女たちを送れと. それで, 軍のトラックに乗せられて, 駐屯地に行かされて, 駐屯地で何日間か「慰安」を強制されて, また岳州に戻るとい. そういう生活を, どうもしていたようです. ええと, おばさん, なんだかんだ全部で7年も中国にいたわけだけど…….

宋 そうです. なんだかんだ7年, あしかけ7年.

梁 うん. 一番つらかったことって.

宋 そうですね, 一番つらかったのは, あの軍人たちが関係すべっちゃ. 関係して [いる時に], 弾が飛んで行くんだよね, あの弾が飛んで行っても逃げようしないんだよな. だいたいこっちはおっかないわけさ. そうすつと, やってたって気がすまないんだから, やられないと言ってビンタとられて, やらせて自分が気を出せば出て行く. この時つらいのと, 言葉通じないのもつらいのと, もう, 大変だ, とにかくね.

梁 言葉通じないのはどうしてつらかったの?

宋 いやあ, そりゃ言葉わからないのがやっぱり日本語でも上手に……. 俺も学校は出ていない人

間だから、学校でもちゃんと出てればやっぱりしゃべる言葉だってなまりが違うでしょうが。だから、言葉通じないから一番つらかったのは、そこなんだよね。こんなことしないでけろとか、あんなことしないでけろとか言うんだけど言葉通じないから、なんて言うの、うんうんって聞いていると、残念ながら一生懸命聞いてたわけなんだよ。それがつらいの。とにかく一番つらいのは、弾が飛んで行くのに関係して、すまないから帰らないっていう軍人たちが刀を抜いて、いまでも、このあばら、切られてるわ、いま。二センチだか三センチだか。傷がこの傷。あとビントは、はちころされっぺし。〔ビントを受けたために〕耳は遠いべし。もうほんとにもう、死にさ行ったんだか、生きさ行ったんだか、さっぱりわからん。嫁にでも行けばこんなことなかったんでねえかなって、反省しても無駄だしね。

梁 弾が飛んでくる中でも、軍人の相手をしたと。
 宋 ああやった。相手する。そりゃ弾が飛んでくるからだめだって言うんならいいところもあっけども、相手が早く、戦争というか討伐ね、作戦さ行けば死んでくるっていう頭があるから、ひとりでもふたりでもよくやりたいから、結局弾が飛んでくるのも知らずにやるわけなんだよ。われわれ弾が当たって死んだらおかしいじゃないかって、逃げっぺとすっぺ。逃げはしないし、飯も食わせないし。あんな馬鹿げたことやってんだから。忘れることもできないようなやり方してんだよ、日本の軍は。忘れません。また、ほんとに、死んでも忘れられね。中曽根の野郎、政治家の野郎、死んでも忘れねえなんて言うけど、こっちのこと言ってるよ、あの馬鹿者！

日本の敗戦と引き揚げ

梁 それで、戦争終わったのはどういうふうにし

て知りましたか？

宋 その時はね、咸寧、咸寧ってところに行ったら、あれ小田金作〔仮名〕¹⁾ いま死刑になって、いないべっちゃ。小田金作の野郎が来たんだってが、俺がいねえもんだから、探しに。戦争が終わったんだから、とにかくいっしょになろうよって。いっしょになろうとしたって日本さ行く他ねえべって言ったから、日本さ行ったってどこさ行ったっていいじゃねえの、おめえ、大丈夫だから、いっしょに結婚しようって言って、そこでマダムさんがいたから、そのマダムさんがね、小田さん、日本さ行ってもいいあねっこがなんぼでもいるのに、朝鮮人といっしょになったら親たちが承諾するわけじゃなかんべ、って。だからやめた方がいいんじゃないかと言っても、いいんだって。それで小田の口車さ乗って、現地満期、ほんとの軍隊の現地満期じゃなくて、無断の現地満期して、それでまあ、こっちは字が読めねえもんだから信用して、それで小田金作と日本さ来たわけなんだよ。ほんとは。

梁 元軍人ですね。日本の軍人だったんですけれども、「現地満期」と言って、現地で満期を迎えたんだと。自分はもう、兵隊じゃなくなったというふうに言って、宋さんと結婚して、夫婦として帰ろうとしたんですね。こころへんの話は藤原彰先生にご意見を求めたところ、当時、そのような人が中国で現地満期になるというようなことは、まず考えられないと。おそらく軍人としてに身の危険を感じて、民間人になりすまして、より信憑性を高めるために、夫婦で日本に帰ろうとしたんじゃないかというようなことをおっしゃってました。で、その小田さんとね、あ、小田さんってあんまり言っちゃいけないんだ。えっと

1) 宋さんは、この軍人の本名を出して語っているが、ここでは仮名に替えておきたい。

……。

宋 いいんじゃ。天皇陛下だって名前はあるんだから。あんなものはなに言ってんだ。

梁 彼と、彼と結婚、元日本の軍人に結婚して日本に行こうと言われて結婚して、日本に来て、来てからどうなったの？

宋 それで、日本さ来たならば、その小田金作というのが、嘘ではないが埼玉の深谷ってところあるっぺちゃ。そこに生まれたから、で、そこさ行くっぺかなと思って、いや、おめえ、行かなくってもいいって言うわけさ。あ、この男なんだや、あっちで言ってる言葉とこっちさ来て言ってる言葉とまるっきり違うじゃないか。今度捨てられたら、この男に放されたら行くとこねえんでねえかなと思って心配しながら、ちょっとオシッコがつまっちゃってオシッコもたれて痛いけど、行かれねえし、もしオシッコたれさ行くふりして行ったらこの男に逃げられたらどうしようもなんないべちゃ。だけでもなんとかしてこの男に捨てられても身元ば覚えなきゃ大変だなと思って、たらたら出るの、たらたらぐしながら〔漏らしながら〕その小田金作というのを逃がさないで、小田金作のどこさ行ったの。

梁 家まで。

宋 はい。行きました。ちゃんと。

梁 それから。

宋 それから小田金作の野郎は、そのころ8月15日終戦だったから、麦枯れる時だからちょっと暑い時だよ。6月だったかなあ、7月か。普通ならば、本当の人間ならば、明日にでも捨てなくちゃならないおなごとね、いくら肉体関係が好きだからと言って明日にも捨てなきゃならない人間さ、おめえ、麦の束になったところを1段、2段、3段、4段で、人が見えない程度に重ねて、その中さムシロー一枚敷いてそこでやるんだよ、俺のこと。

ああ、こんなことでも聞けば、まさか俺を捨てるんじゃないべかなあとと思って、だまって言うこと聞いたわけなんですよ、実際。悪魔みたいなことやった。だからあん畜生、死刑になったべちゃ、いま。悪いことばっかしてるから。

梁 でも結局捨てられちゃったんだ。

元軍人に捨てられる

宋 捨てられたちゃ。それは来た時に、小便もぐしながらも、あいつらのとこさ、うち行ったわけさ。行ったら、兄貴はあれは峯部隊だけど、あれは2中隊だし、小田金作は3中隊だし、その次の弟は何中隊だか、とにかく兄弟が3人いたのよ。その3人ともみんな峯部隊なんだよ、全部。階級は下だけど、小田金作は陸軍の軍曹だけど、それでその兄貴が、おめえ、捨てるならなにか商売でもやらして、ちゃんとひとりでも生きて行くような行動をとって捨てなくちゃ、おめえ後でバチ当たるぞって言われたの、兄貴に。なに、こんな敵助野郎、朝鮮人だもの、いいんじゃねえかと。投げたっていいんだって。朝鮮人だからどうなってもいいっていう頭で、よおし、□□□、覚えてやがれって行って、□□□みました、俺。それで私、小田から放されて、行くところもないし、握り飯、あの小田金作の兄様があにさまいた、その小田金作の兄様が握り飯3つを、米1升、生地2割だか3割だか□□□、もんぺでも作って着ろって、そいつ持って、そして行けって言ったって、行くところないよ、どうやって行くの。

そしたら、その小田金作は大阪の桃谷というところさ行って捨てたの。でね、桃谷というところさで捨てる時に、なんでおめえ、俺を捨てるんだったらば、戦地から連れてこなくちゃよかつたんじゃないかと。ここさ連れてきて、おめえが俺のこと捨てるんだったら、何をどうやって生きていくん

だつて言ったら、ここに進駐軍がセンダイあたりだの、ヤモトあたりだのなんぼでも進駐軍がいるから、進駐軍とベベ売ってやっていけってというのは、結局自分たちが「慰安婦」で遊びさとして、そういう行動とて言ってる言葉なんだよ。俺のこともう投げのおごだから、もうどうなってもいいという気持ちで。そうやって、俺は捨てられました、ほんとに。

ほんで桃谷さ行って、しょうがないから働くとこ見つけて、運動靴つくるとこの運動靴こしらえて、それで3ヵ月、金ためて、また行きました。あいつらとこさ行って、俺だつて馬鹿じゃない。いくら馬鹿だつて、あれほどされたら、そう簡単にあきらめきれないよ。ほれてるわけじゃないの。執念深いんだから、私は、どこまでも仕返しなくちゃならないって頭持ってあいつらのところに行ったらね、朝鮮さ行ったつもりだったんだね、あの男は、また帰ってきたんだと思って、来たんだだけ。そしたら仙台刑務所に入ってるって聞いたの。まもなくだ、32歳で死刑になったっていうんだから。

女川での生活

梁 その後、上野から電車に乗って、最後までいっしょに暮らすあのおじさんね。

宋 はあはあ、カワモトコウイチ。

梁 河本さんに、どうやって出会ったの。

宋 そして、俺が死ぬかと思って汽車さつくどりした〔飛び降りた〕のや。だけど死なないで生きてきて、女川さ闇米商売してるタシロっていうんだけど、あいつもいま死んだんだけど、その男が、女川っていうところに行けば、カワモトコウイチって人間が飯場の監督やってるから、そこさ行って飯炊きでもしたらどうか。飯炊きできるわけじゃないの、半病人みたいな体でもって、来

てみたらもう、好きでいっしょになるような顔でもないし、怖いべし。背はでかいべしさ、いまでも取って食うような顔してるべし。もうしょうがないからなんとかもんぺはふっさげて来て、後はうまいこと言って着るものでも1着買ってもらおうかなと思って、そしてまあ、じっさんのとこさ行ったわけなんだ。

その時はおじいさんが45,6になってて、私は23だし。それでまあ、行ってみたらとても親切でいい人だったんだけど、いっしょになる気はなかったの。実際は、まあ、それでそのカワモトコウイチが、私の体見てなんでこういうふうになったの、ああいうふうになったのって訊かれたけど、「慰安婦」さ行って働いて、こういうざまになったということは、よくしゃべれなかったの。恥ずかしくて、いまでもしゃべれねえ、あのオヤジが死んだから言うけども、それであのオヤジさんが言うのは、おめえばりじゃないんだ。いま日本は戦争に負けたから、そんなこといまさらなんだかんだ言うなって。カワモトコウイチは全然、私さね、答えてくれないし、ああ、かわいそうだ、の気持ちも。ただ、おめえが馬鹿だから連れて行かれたんじゃないかねえとか、振られたんじゃないかねえとか、ただそれだけや。

それでそのカワモト、俺だつて馬鹿じゃないべし、シラミとってくれたりさ、一生懸命この体中みんな半病人みたいになってる人間おしてくれてれば、その恩が忘れられねえの。それでカワモトコウイチと、30年も40年もくっついて、山さ行って木とって売ったり、バラス割りしたり、いろんなことして生活やりました。ほんとに。死ぬよりええかなと思って。死んだら身も菌もねえべや。うん。

梁 いまカワモトコウイチって言ってるのは、日本人のような名前なんですけど在日朝鮮人です。

生存のための「命汚い」生き方

梁 ああ、宋さん。戦場ではね、死ぬ、宋さんよく「命汚い」って言うんだよね、自分のことをね。

宋 ああ、私、命汚い。

梁 これは命が惜しいって意味で……。

宋 命は死んじゃったら終わりなもの。

梁 うん、だから宋さんはとにかく死ぬのが怖かった。

宋 死にたくないもん。いまでも死にたくないよ。

梁 どういう時に死にたくないって思ったの？例えば慰安所にいた時に、他の「慰安婦」の人が死ぬところを見たの？

宋 いや、やっぱり兵隊さんと好きになって死んだ人もいれば、それから借金しょっていじめられていじめられて、どうしようもなくなって、クレゾール飲んで、水もなんにもなしで、それだけで飲むといっぺんで死んじゃうから。ほんで死んだ人多いから。だから、ああいうの見たら、ほんとどうにもなんねえから、ああいう死に方はしたくねえなと思って、命汚くなったの、私は。

梁 だから、こう、話を聞いていると……。

宋 水飲ませろや。のど渴いた。

梁 のど渴いたそうです。

宋 アイゴー、何にも飲ませねえでしゃべらせ続けて！

梁 ジャ、ちょっと私がしゃべってるね。慰安所での話を聞いていると、宋さん中国に7年もいるんですよね。宋さんの話を聞いていると、7年間いる間に、他の「慰安婦」の方が自殺したりとか、あるいは軍人と心中をしたりという話を聞くんですね。心中しても、兵隊は骨になって国に送ってもらえるけど、「慰安婦」はその場で土に埋められて終わりだと。死んだら国に帰ることもできない、自分は絶対死にたくなかったということ言うんですね。最初に逃げようとして、抵抗して逃

げようとする、暗い部屋に監禁されて、ご飯ももらえなくて、で、たくさん叩かれるものだからいま左耳が全然聞こえなくて、実は補聴器をやってるから、かろうじて聞こえるんですけど。ふだんは私たちと話していても、補聴器をはずすと、もうなにも聞こえないです。悪口以外は、宋さんの悪口言えば聞こえます。なぜだかわからないけれども（笑）。これだけは最初会った時からびっくりしましたが（笑）。

だからこれだけ叩かれてる中で、借金があるぞと言いつけられて、とにかく死ぬか、その場でクレゾールを飲んで死んだ「慰安婦」のように自殺するか、あるいはそこで生きる道を選択するかという選択肢を突きつけられたんだと思うんですね。そこで宋さんは命汚いって本人は言うけれども、やっぱり生きる方を選択したんだと思うんです。ですから非常に生命力の強さを感じさせる。みなさんもいまお話を聞いててそう思ったんじゃないかと思うんですけれども、日々接していても本当に生命力の強い方だと思うんですね。

やはり慰安所ですごくつらい時に、とにかく命を救う方を選択した時、宋さんは「慰安婦」としてのつらさに目をつぶるっていうのかな。そっちの道を選択したんだなっていうのが、話を聞いてて非常によくわかる。だから日本語を覚えて、いかに体を楽に兵隊の相手をするのかっていうのを覚えた後の話については、今日はあまりしていませんでしたけど、私たちがはじめて会った時から、よく色々してくれたんですね。

ただ今日みなさん気づかれたかどうかはわからないけれども、最初の時、どういうふうにして自分が、こう、要するに最初はどういうふうレイプされたのかっていう話は、この6年間、なんど聞いても一度もきちんと答えてくれたことはありません。さっき言った橋本軍医という人が性病

検査をして、その人が翌日来たけれども、逃げまどうので、かわいそうに言って頭なでて出てくれたと、でもそのあと帳場に呼ばれて殴る蹴るされて、お前には借金があるんだぞって言われて、その後はじゃあ、いったいいつが最初だったのって訊くと、話をはぐらかしたりだとか、覚えてないって言うふうに言ったりとか。これはやっぱり一番傷ついている時のことが、一番衝撃的なこと、本人にとって一番衝撃的だったことが記憶の中で封印されているんだと思うんですね。

宋 [水が届いて] サンキュー・ベリマッチ！

梁 この間裁判との兼ね合いで弁護士なんかもかなり訊いたんですが、もう軍隊のどこそこのなになにに師団、さっきも言っていましたけど、第9師団とか13師団だとか、この師団名とか、宋さんが言った地名に関しては、吉見先生や藤原先生にお訊きすると、まったくその時代に中国の中部にいた軍隊とびたっと一致してるんですね。だから記憶がいかにしっかりしてるかってことは、そのことによって証明されているんだけれども、女性にとっては絶対忘れられない記憶であるはずの最初のレイプを思い出せない。

裁判で証言する時に、思い出せないじゃなくて実は言えないんじゃないかと思って、こちらもつらかったけれども、弁護士もかなりしつこく訊いたんですね。で、宋さん思い出そうとして目が宙に浮いて考えてるんだけれども、こう話を逸らす程度じゃ、これはもう、しつこく訊かれてだめだとわかった時に、だめだ、どうしても思い出せないって言って泣き出して、とにかく勘弁してくれて、こんなことするくらいだったら裁判をやめるって言い出したんですね、その時に、やっぱりこう、気丈そうに見えるけれども、16歳ではじめて受けたショックというのがいまだに封印されていて、本人がそののところにだけ、記憶がない

んですね。

私は医者でもなんでもないんだけれども、この間にそういった非常に強い心の傷を負った人の後遺症のことなんかを本で読んでみると、PTSDのひとつの症状として、一時的な記憶喪失、もっとも衝撃を受けたところだけが思い出せないというようなことは、ひとつの特徴的な症状だと書かれているのを読んで、やっぱりこれなんだというふうに思ったりしたこともあります。喉は潤いましたか？

宋 うん。なんぼか。喉渴いてわかんねえ。暑いから気持ち悪いよ。水さえあればなおさらいいんだけど(笑)。

若者に伝えたいこと

梁 あと十分くらいだっていうから、あと十分、おばさん思っきり言いたいこと言ってよ。

宋 ああ、はいはい。だから後はもう、「慰安婦」の話はもうやめて別の話するから。だからいま、日本軍が、やっぱりたとえ好きで戦争してでもいいから、な。戦争していま、日本の男だって、20歳や16,18,19だと、20歳、自分のうちでは、息子、息子って言って大事にした息子たちがみんな軍隊にとられてみんな戦死したり、生きてるものもあるけれども、そういうようなこととして、いまはもう日本でも当たり前の人間、いないんだよ。もう、アホみたいなのしか生きていないんだよ、みんな。利口な人はみな死にしまっているんだ。だからふたたび戦争起こさないようにやっていくのには、アメリカ人にちょされないこと、アメリカにちょしていかれるのが一番いけないんだよ。アメリカ人に原子爆弾はふられてるべし、それこそおめえ、なんや、自分の国、自分で守らなければいけないんだから。

ちょっとしたら北朝鮮がどうか、いま北朝鮮

で飯もろくに食えねえし、なんにもできないもんがどうやってあんた戦争するのよ。北朝鮮が、あれ、バカの国が戦争するわけでねえべや、おめえ。アホみたいに生まれたまんまだもの。そいつらちょされてああでもねえ、こうでもねえって馬鹿な政治家のヤツたち頭悩んでるんだもの、よっぽどアホなんだよな、政治家の野郎。だから俺はもうかなわないよ。国会中継なんか聴いてるとね、とてもじゃないよ。あいつらが政治家になってるんだかなと思うと、絶対政治家にだまされてはだめだぞ！ これからもし、戦争始まるかもわかんないよ。戦争始まったら兵隊に行行って言ったら絶対行っちゃだめだぞ。ほうけつけて言うから、戦争好きか、おめえら。好きか、嫌いか、どっちだ。鉄砲たがえて、刀抜かれるようになったらもう、自分の命預けなくちゃならないんだから。絶対ダメだから。戦争は絶対イヤだっていうの。なんで戦争しないで、真面目にならないの。

いま国会の奴らなんて、みんな、あれだこれだ南無妙法蓮華経も国会中継なんだかんだなってるけど、なんみょうだってこんみょうだってみんな懐入れて、みんな自分の懐に入れて政治家、国民がただ馬鹿にされてるだけなんだから。絶対ゆるさないよ、国民だましたら。だからいま、自民党の野郎が一生懸命山ほど重ねてっから結局自民党さばかり入れて、だからまた戦争こりないで、またふたたび戦争起こしたら、ここにいる男の方、また兵隊に連れて行かれるぞ。おそらく20歳にはならないけれども、18.9くらいにはみんななってるんだと思うんだよな。そういうふうになったら、あのばあさんが言ったことが間違いじゃなかったっていう時には、遅いから、しっかり反対をして、私はイヤ、親を守ると。戦争さ行くよりも親守って、自分もおっかあもらって、子供つくって人並みの生活しなきゃならないと。そうして意志出さ

なければ、ひよっとしたら、なんだっちゅったらかんだっちゅったら、口車さ乗っちゃったら、もう終わりだよ。アメリカ人にちょされたら、あかんのだ、いま。

アメリカあんな鼻高いのに、沖繩だっってみんなちょされて、沖繩だっっていまどれだけ悩んでるだかわかんないべっちゃ。そこさなんだい、あんた、今度橋本の野郎辞めたら、国会中継〔首相が〕何人変わっているの。村山だかホラ山だべ。それからなんだや。小沢だかコザワだっっちゃ。それから橋本□□□。みんな懐いっぱいになったらあとと終わり。やらねえべ。みんなそうやって、みなさんが、その真似をしないで、真面目になって、早く奥さんもらって人並みに生活するようなことさ、絶対戦争は！

これは国のためじゃないんだ、自分のためなんだから。なにが国のためだ。自分が死んじったら国のためになんないんだから。昔は国のため、だから天皇陛下、さきにくたばった天皇陛下いっぺ。あの男がな、マーサルってタバコ、チカラマーサル〔力優る〕っていう煙草送ってそれを軍隊さ配給するの。下士官だけだよ。それを兵隊さんが持ってきて、吸えて言っただけ煙草吸わなかったから。チカラ、っていうんだよ、チカラ。それを吸えて。それを吸えなくて、でもそれ兵隊にはくれないんだよ。下士官だけ。そうやっていろんなこと見たから、日本の戦争はすごいなっということがわかったの。それで戦争が負けたら、腹切ってくたばれだの、頭切ってくたばれだの。じゃあ、朝鮮人なんかはや、人の国の戦争さ行って巻き込まれて自分のうちとられたらば、どこの国のためだ。日本の国のために働いたんだから。ちゃんと恩給だっって人並みにくれないきゃいけないんだよ。恩給どころか悪口ばかりで、さっぱりわかんねえべっちゃ、いま。ゆるさない。まあ、私の

体験これだけだから、どうぞよろしくお願ひします。あんまりしゃべると嫌われてしまう(笑)。

——拍手——

宋 ありがとうお〜!! サンキュー・ベリマッチ!!
(笑)

2. 質疑応答

吉見 長時間で宋さんお疲れになっています。昨日、宋さんは来られて、国立のホテルに泊まれたんですが、今日ここで話をされるといふので、なかなか眠れなかったそうで、ちょっと睡眠不足でお疲れでした。明日マクドゥーガルさんという方が……。

宋 やる。俺は徹底的にやるから!

吉見 国連人権小委員会の特別報告者のゲイ・J・マクドゥーガルさんにあつて、そして、ヒアリングを受ける、そして女川にお帰りになるのですが、せっかくの機会ですので、質問をお願いします。

宋 みんな二十歳そこそこなんだから、だいたい意味わかるわけだから、どういうことしたらええのか悪いかちゃんとわかってんだから。危ないトコあったら、俺が先頭立ってやるから。畜生この、政治家より、俺は学歴はないけどそれだけ元気があるから。だれがおめえ、政治家なんか一貫目なんぼすんだ、あいつらなんかみんな。

日本に求めること

学生 法学部3年の〇〇と言います。さきほどのお話で、僕たちに、戦争に絶対に行くなって言ってくださったのがすごくうれしかったです。で、質問なんです、日本政府は「慰安婦」問題で法的責任はないと主張しているんですが、宋さんが日本政府にいま要求したいことはなんでしょう。

宋 あのね、私は金が欲しいんじゃないんだ。金が欲しくて裁判やってるんだらうってみんながそ

う言うけど、金じゃなく、戦争ふたたびしないで、仲よくやっていくのには、朝鮮人であろうが中国人であろうが、どこの人間でも仲よくやっていくのには謝罪すればいいんだ、謝罪。いままでにやったことの謝罪。この朝鮮人のおなごに、朝鮮の軍人、軍属もみんな謝罪をして反省をしなきゃならねえの。それさえすれば立派なもんだ。心があれば、ああすまなかつたとかぐらいは、わかるべっちゃや、一体、人間は目先で金ばかりこつてはだめなんだよ、人間ていうものは、金にこつたらくたばっちゃうんだよ、ほんとのこと言うと。

だから、それをいま、政治家は全然わからねえんだもの。ああ、金が欲しいんだとか、何が欲しいんだとか。しまいに自分も五十年もたってるから戦争のこともわかんなくなつたんじゃないねえの。自分たちがなんじよな行動とつたんだか。そういうわけなんだ、私は。要求したってなにもはっぱわかんねえよ。こいつらなんか、政治家の野郎ども。全然わかんね。どいつもこいつもみんなおかしいんでねえべか。みんなポンコツなの、全部。だから、あんちゃんさ、私の体験きいたらば、あのばばあ怒るのも無理もないなと思つて聞いてんのか。なんや、これ、人の国のことよけいな口出してなんだと思つてんのか。どういうふう聞いてるんですか。

学生 僕ですか。僕は今ですね、先生になるための勉強をしていて、「従軍慰安婦」のことを授業で扱おうとしたら、どういうふうにあつたかという、そういう計画を立ててるんです。

宋 あのね、これは歴史だから、歴史が残ることなんだから、仮にそちらさんが、学校の先生、まさか、この先生〔吉見〕ばかりが先生になるじゃないんだから、この先生も年とっていくんだから。そのことを、この先生のかわりにまた、それは立派な先生になって、歴史にこういうことはやっち

ゃいけないってこと、学校の子供たちにみんな教えて、それで立派な先生になればなってもいいよ。ただ、生半可なようなことしたら、先生になんねえ方がいいぞ。うん。それだけは言える。

学生 はい。

宋 うん。

学生 あと、もうひとつ。政府ではなくて、日本の国民に望むこと、してほしいことというのはなんでしょうか。

宋 あのね、私、それ言うの。政治家の野郎はアホだからわからないから、ひとりひとりの国民たちが、血も涙もあつたら、ああこれはいけないことだと、友だちにも公表して、本当に戦争というのはこれはつまらないと、こうして教えていけばいいじゃんか、おめえ。うん。ただ学校の先生は字ばかりで読ませるっていうからじゃなくて、世の中どういうふうになって、ここのしゃべってるところに原子爆弾でも落ちてきたらどうする？おめえ。それを考えて、なるべくなら戦争が起きないようにするためには、国民ひとりひとりが考えないと。これは仲良くやって戦争なくさなきゃならないと。ほんで、好きな子供たちもいるから、そういうふうにならないように真面目に、死ぬんだから、兵隊になったら、大変だよ。まあ、死ぬ運命があつたら畳の上でも死ぬけども、教える時はあんまり頑固なこととして教えないで、ちゃんとね、真面目になって、そして、仲よく。

ただ世の中っていうものはね、自分が馬鹿になって、ちゃんとあれしていかないと、いまの子供たちはわからないんだでば。ほんとに。もう少し頭使って、だから、政治家ばかりどうだこうだと言ったって、はっばわかんねえから。国民ひとりひとりが、学校の先生ここにいるけど、この先生の言うこと聞けば、なるほど、この先生の言うこと聞かなければ。おめえ、先生のこと、みそくそ

思ったら、はっば何も聞きたくねえんだよ。自分ひとりで生まれたような人はいないんだから、それとおなじだから、そちらさんがだんだんだんだんおがってきたら、20歳、30になったら、だいたい世の中がどうなっていくかちゅうことがわかるようになるから。ただ鉄砲抱えて戦争するのばかりが能じゃないんだから。絶対そういうことにならないようにお願いします。頼むから。うん。

学生 はい。わかりました。どうもありがとうございました。

宋 ああ、うめえ。喉渇いちゃって(笑)。

在日としてどう生きるか

吉見 他に質問したい人はどうでしょうか。

学生 法学部1年の〇〇と言います。今日は貴重なお話をありがとうございました。ふたつ訊きたいんですけど、民族、ということと、差別ということについて訊きたいんですけど、僕は在日の朝鮮人なんですよ。宋さんが。

宋 わかった、わかった。で、おめえも辛いのおうんだな。俺、辛いものだめ。あかん、だめだ(笑)。俺、辛いのおうと、ジンマシンしてわかんないんだよ。だめ、腹は痛いし。だめだ。

学生 僕のおじいちゃん、おばあちゃん、ハラボジとかホルモニの話きいてると、絶対日本人になっちゃだめだという話をしたり。

宋 あのね、あんちゃん。朝鮮人であろうが、日本人であろうが、ひがみ根性は投げた方がいいと。そのひがみ根性持たないで、俺も日本人だと。たとえ朝鮮人であろうと同じ人間だと。5本の指切ればみんな痛いんだよ。

学生 いまほんとに話そうとされていることが聞きたいんですけど、死んじゃだめだということもおっしゃられて、僕もだから、自分がなりたい職業とか、さっきも先生になりたいという人がい

たけれど、僕も先生になりたかった時に、僕の頭の中は完全に日本人なんですけど、先生になることはできないですよ。で、僕が裁判官になりたいと思った時でも、司法試験通ったとしても、僕は日本人じゃないから、裁判官にはなれないし。

宋 そんなことないよ。
学生 生きるとか死ぬって問題から考えれば、大した問題じゃないかもしれないんだけど、自分の夢がかなうかなわかないかというところに、民族という差別の問題があるわけなんです。そこで、じゃあ、僕が日本人になれば簡単なんじゃないかって言ってくれる人もたくさんいるんだけど、そういうふう考えた時、ちっちゃい時に、宋さんが体験されたこととは比べものにならないかもしれないんだけど、お前は日本人じゃないんだからってまわりの子供たちから色々なじめを受けたり、そういう体験をして、ああ、自分は日本人じゃないんだって意識を持っていままで来たわけなんですけど、そこでバツと日本人になって、みんなと同じように暮らしていくべきなのか。民族ってどういうものなのか。民族差別がいま日本において、実際にあるわけなんですけど。

宋 昔からな。あったから、んだんだ。

学生 それについて、朝鮮人は、って言う日本人についてどう思われるか、ということとか、朝鮮人と日本人はどう違うのかというようなことを、少しお話聞かせていただければうれしいんですけども。

宋 ああ、ほんとに考えてみればね、これ言われるまでもないんだけど、おめえさんたちももう年も二十歳になったかなんねえかくらいの年なんですけども、とにかくこの戦争はやっちゃいけない。裁判官になろうとも、弁護士になろうとも、この戦争は始まったらもう何にもできないんだから。だから真面目に働いて、そしていい人間になって、

たとえ大馬鹿者みたいな人間があっても、そいつ素直に聞かして、仲よくやっていかなきゃならねえんだよ。ほんとに、おっかなくて逃げるんじゃないんだよ。汚いから逃げるの。それと同じで、相手になったってうまくないんだから、相手しない方がいいしさ。そしてお互いに、私がいま七十七だからね、七十七の人間がこんな貫禄があるべじゃ。おめえらまだこれからの小孩じゃないか、まだ。まだこれから、小孩というのは中国の言葉で子供だってな。だから、まず、戦争はない、なくした方が一番いいんだよ。戦争は、戦争のためにみんなくだらない苦勞もするし、苦勞しなくても苦しいし、おめえさんたちは、いま生まれてよかったぞ。これから死んだ軍人たちは気の毒でたまんねえや、こりゃ、な。

梁 おばさんもさ、帰化した方がいいって言われたことあったんじゃないかって？ 日本人になればいいって、それはない？

宋 俺はそんな馬鹿なことは聞いたこともないし、日本人になりたくもないし、人間だってことだけは頭にあるんだ。なぜ人間は。

梁 だから、どうして日本人になりたくないの？

宋 いやあ、それはわかんないよ、俺は。

梁 人間だからいいわけじゃない。

宋 うん、人間だから。たとえ、どんな……。あのね、犬でもなんでもこの犬が飼って、とてもよさそうだなと思えば、その犬を飼っているのとおなじで、日本人であろうが朝鮮人であろうがなんであろうがさ、この人と仲よくしていかねばならねえなと思ったら仲よくできるの。この人間は朝鮮人だから塩梅悪いとか、何が悪いとか言われたら、付き合うことできないのよ。

梁 じゃあさ、彼に日本人になっちゃダメだダメだと言ったおじいさんとおばあさんのことはどう思う？

宋 じゃあちょっと、ダメだ。こいつはあかん。子供さ抱いてそんなバカなこと言って、一体日本人になっちゃだめだと言って、じゃあ、なぜ日本の国にいるの。ダメだ、あっちさ行けねえんだから。そういうで並べるのよ。だから、日本人になっちゃだめだとは、そういうの教える親も親だな、やっぱり。こりゃあかん。それはやっぱりな、いろいろ冷たくされたから言われるかも、誰だって欠点のない馬鹿ないんだから。天皇陛下だって欠点あんだよ、おめえ。欠点というのは誰にでもあるの。そいつを忘れてこれからでもおそらく遅くはないから。仲よくやっていきなさいっていうの。たとえ言葉が通じなくても、向こうさ行ったらちゃんと頭こうやって付き合っていくんじゃないの。ほんで仲よくやっていかねえことには戦争起きるんだよ。家庭の喧嘩も、戦争もおんなじ。だから私ね、宮城県にひとりであるけどもおっかなくてみんな逃げてきちゃうんだわ、俺のところから。女ヤクザって言ってみんな逃げちゃうんだよ。おれ、ヤクザじゃねえよ。俺なんでヤクザになんなきゃならねえの、馬鹿みてえ（場内爆笑）。

梁 みなさん宋さんの話をいっぱい聞きたいと思うんで悪い気がするんですけど、宋さんって、こういうふうを超えてるんですよ。そういう同世代のおじいさんとかおばあさんの感覚を超えて、人間、っていうところですごく普遍的な価値を見てるところがあって、それって私もすごくいつも尊敬する。私も在日朝鮮人の二世で、私は朝鮮学校出てるから、日本人なんだって考えもしないでほとんど、私、親もそんなことあえて言わなくても大丈夫、っていう。当然、っていう感じでしたんだけど。

宋 だめなんだよ、そんなの、おめえ。お前から見てみれば俺は朝鮮人だから、ああ、親たちがこう言ったから。自分の頭で考えるんだよ、おめえ。

親の言うこと聞かねえで。俺は立派な日本人だと、こう思って、子供たちと仲よく。

梁 いや、朝鮮人だから、この子は。

宋 いや、朝鮮人だけれども、親たちがこういうふうにかせれば、胸糞わるいから言ってるだけだから、親たちがいくらしゃべったって、仮にどういうふうになったって、自分自身がああ、俺は立派な日本人だと。同じ日本人だと言ったらそれでいいじゃないの。朝鮮人になりたくなかったら、日本人になりたかったら日本人に。そういうふうになればいいんだから。馬鹿になって利口になれてや。俺見ろ、おめえ、七十七にもなって、あの女川でひとりで暮らしてるんだぞ。役場の野郎だって、警察だって。だから、俺、なんだこの野郎って言って、はたきつけるんだから。仕方がないんだ、俺。やっぱり暴れまくった人間だからね。やっぱり気性が合わねえから。

梁 ひとつだけ例を挙げると、この裁判の弁護団の中に、^{キムキョンドク}金敬得っていう在日韓国人の弁護士さんがいるんですよ。彼は在日韓国人というだけでなく、在日外国人としては、日本ではじめての弁護士なんですね。だからそれまで司法試験を受けることはできるんだけど、司法修習生になれないっていう、アホな制度だったんですよ。受かっても修習生になれないから、弁護士になれないっていう。それですごくおかしいじゃないかっていうことで、彼は昔は、朝日新聞が読めなかったんですけど、チョウニチ新聞、朝鮮人のチョウウに見えちゃって、もうだから自分が朝鮮人であることをすごく、いま、あなたみたいにしっかりしていないわけよ。いま話聞いてほんと、たのもしいなと思ったんだけど、大学時代までずうっと自分で朝鮮人であることを隠し通してきて、で、就職課に行ったら、早稲田なんだけど、彼はね、朝鮮人を雇ってくれる大企業はないと。彼、マス

コミに行きたかったんだけど全部ダメと言われて、中小企業でよっぽど人のいい社長さんがいたら引かかるかもしれないから、一応出しておいてください、って言われた時に、もうそれまでの自分の卑屈だった人生に対して、非常に腹が立ちちゃったんですって。その、それまでは民族団体から誘いが来ても逃げ回ってたんだけども、ひとりで闘い始めるわけ。その民族団体とかにも、いままで自分は無視しつつ生きてきたから、頼れないっていうふう考えたらしいのね。

宋 で、何したの、おめえ。

梁 うん、いいじゃない。おぼさん。アタシの話。アタシにも少ししゃべらせてよ。もうさんざんしゃべってるんだから。で、ひとりで、みなさん、もしかしたらよくご存知かもしれないんだけども、ひとりで、とにかく朝鮮人でもできることはなにかって考えて司法試験を受けてみたら、修習生になれないって壁にぶつかって、そこでこれまでに司法試験に合格したら、みなさん帰化されて弁護士になられましたよって言われて、帰化をすすめられたらしいんですよ。で、ここで帰化をしたら自分がめざめたあれはなんだったのかって考えた。それから後も、絶対自分は帰化をしないで闘う、ひとりで闘うと決めたんですよ。で、他の朝鮮人に対しては自分はいままで後ろめたいから、彼らが闘ってきた時に、自分は闘わなかったから、助けを求められない。でも日本人で支援してくれる人たちがついて、最高裁判所に対して申し立てをしたところ、これが意外に簡単に通っちゃった。

だれもやろうとしなかっただけなんです。みんな、なれないに決まってる。でも、法的にはどう考えても、司法試験に受かった外国人が修習生になれないという理屈はどこにもなかったのに、慣行としてなれないというふうみんなが言うから、

みんながそう思ってみんな帰化してた。ところがおかしいじゃないかと言う人がいて、最高裁判所が判断を出してみたら、それはもちろん、法的にはなれますと。で、いまはもう5、60人、70人くらいって言ったかな、いろんな国籍の人たちが日本で弁護士に、あなたが言ってるような裁判官にはなれないんだけども。

だからまあ、よくご存知だと思いますけれども、私は弁護団の中に金敬得さんがいて、いつもこの話を聞くと感動するので、私なんか朝鮮学校出てぬくぬくと育ってきたから、やっぱり彼のその強さって言うのかな。いまのお話の中では、職業のために日本人になるとか、そういう選択はやっぱりして欲しくないな。宋さんが言ったような、本当に対等に、人間として対等であるという前提があって、本当に自分の心の底からの気持ちで、自分の中にはやっぱり日本しかないのに、朝鮮といった、あるいは韓国かもしれないけれども、国籍だけを持っていたり、自分の本名にしても全然実感が無いのにそれだけを持っていることがおかしいというふうに、すごく素直に卑屈な気持ちが一番もなく感じられて、それが自分にとって自然だという。そういう感じで日本を選択するっていうのは、私は全然もう問題はないと思いますね。宋さんが言ったように、でも、少しでもなにかマイナス要素があって選ぶんだったら、絶対に選ばないで欲しいと思う。人間として、それはたぶんまわりの日本人の友人たちもそう思うと思うし、日本人を侮辱することになっちゃうんじゃないかなっていう気もするし。

宋 そのひがみ根性ってのはダメ。

梁 いや、ひがんでないわよ、彼は。彼はえらいわよ。

宋 いや。

梁 ちょっと後でゆっくり話しましょうね(笑)。

学生 ありがとうございます。

吉見 時間がなくなってきましたが、あとひとりかふたりくらい、せっかくの機会ですので。

学生 法学部1年の〇〇と申します。つらい経験は色々聞いたんですけども、若い頃の楽しかった思い出とかありますか。

宋 楽しかったのはね、喧嘩好きだったの、私、喧嘩が大好きだったの。女ながらも、あのね、喧嘩しても、負ける喧嘩はしないんだ。私なんか、噛み付くんだから。ほんでね、しまいに親の喧嘩になっちゃってや、子供の喧嘩で。で、木さ登って柿かっぱらって食ったり、そのカブさの畑さ行ってカブさ針でつついたり、いろんないたずらばりして、これ、な。もうすごいんだから。男以上だったから。だからね、お父さんがね、うんと大事に育てたらしいんだよ、俺を。そいつは俺にはわかんねえけど、お母さんはいびるだけで、お父さんは全然いびらなかつた。ほんで七つになるまで、一生懸命しょって歩いたり。ほんで七つになるまでおっぱい飲んでたんだって。大事に育った者がこげなざまになってるんだよ、いま。きかないんだよ。だから戦争始まったら心配ないよ。それこそ戦争する要領も覚えてるもの、ちゃんと。どういうふうにやればいいんだかってこと。誰に負けるって。絶対大丈夫だ。それをどうして訊いてるの？ あんた（笑）。楽しいべっちゃ。生きてれば。若い時だっていまだっておんなじだ。いま一番の楽しみ？ 食いたいもの食って、しゃべ

りたいことしゃべるから。あはは。一番楽しみだ、いま。あはは。後は？ 後はどんな話ですか？

学生 それだけです。ありがとうございます。

吉見 ほぼ時間ですが、あと1名だけ。

つらい体験をなぜ話すか

学生 1年の法学部の〇〇です。宋さんの過去のお話を話されるのはすごくつらいと思うんですけど、そのつらい体験をどうして話すようになったのでしょうか。

宋 やあ、それはやっぱり生きていうちにね、こういう苦勞してただ死ぬより、こうやって自分で苦勞を無駄にして死んだよりも、自分で苦勞をしゃべって、みんなにわかってもらうためにこういうふうにししゃべるようになって、まあこれ、「慰安婦」の話が、かっこも悪いっちゃ。「慰安婦」さ行って来たって言ったら、誰も相手にしてくれないっぺっちゃ。そういうふうにと考えると恥ずかしいし、だけど、いま、恥ずかしくない。わかってもらえるから。実際はこうなってる。どなたでもいいからどんどん話してよ。

吉見 この後、教職員食堂でいっしょに食事をしますので、個人的になにか聞きたいことがある人は、いっしょに食堂の方に来ていただきたいと思います。今日は、宋さんと梁さん、どうも長い間ありがとうございました。（拍手）

吉見義明（中央大学名誉教授、日本現代史）

梁 澄子（一橋大学社会学部非常勤講師、
「希望のたね基金」共同代表）